

## 活動テーマ

## 『みんなのびわ湖の池を よみがえらせよう』

## 実践事例について

愛北小の子どもたちは、身の周りの豊かな自然や環境を守ろうとする地域の人たちや施設とつながって体験活動を行ったり、地域の福祉施設と協力して学習したりしている。自分の生活をふり返り家庭でも実践できる活動へと取組を広げている。

## 1 学校環境

本校は、鈴鹿の山々を背にし、田畑や果樹園の広がる農村地帯に位置する。近くに湖東三山の一つ「百済寺」があり、歴史と豊かな自然に囲まれた学校である。

地域の産業は兼業農家が多く、米・野菜の他にも地域の地形や気候を生かした、メロンやぶどう、梨等の果樹栽培が盛んに行われている。

また、「菜の花エコプロジェクト」が全国的に有名になり、環境に配慮しながら安全で安心な農作物を作る「環境こだわり農業」や「ゆりかご水田」などの推進に力が注がれている。現在では、あいとうエコプラザ「菜の花館」を拠点として、資源循環型の地域づくりが活発に進められている。

## 2 実践事例

## (1) 学校ビオトープに関わる取組

愛東北小学校には、約20年前に整備されたビオトープ池が存在する。池はびわ湖の形になっており、琵琶湖大橋に当たる位置には石橋をかけるなどの工夫がされており、環境教育の場として生き物の観察などに活用されていた。

しかし年数の経過に伴う水質の悪化や、アメリカザリガニの混入による生き物の減少といった要因で、近年はほぼ活用されなくなっていた。

そこへ、魚類研究者から「学校ビオトープを活用して絶滅危惧種のカワバタモロコを保全する」というプロジェクトへの参画の打診があった。そこで、プロジェクトへの貢献と、児童への環境教育を同時に実現することを目指し、既存の池を改修してカワバタモロコやその他の水生生物が暮らせる環境へと復活させることとなった。

## ア ビオトープに親しむ学習活動

低学年の児童の生活科の学習として、ザリガニつりとその飼育、また図画工作科にかかわってザリガニの絵を描くなどして、ビオトープを利用して学習することができた。他学年の児童も積極的にザリガニの駆除に参加し、数百匹を駆除することができた。改修完了後には、カワバタモロコの稚魚を探しに行ったり、氷の張った池で遊んだりとビオトープに親しむ児童の姿が見られた。



## イ ビオトープについて広める学習活動

秋の学習発表会では、4年生がびわ湖の池について調べ学習を行った。ビオトープの目的やアメリカザリガニやブラックバスなどの外来生物、カワバタモロコについて調べ、模造紙やペープサートを用いて保護者や全校児童に向けて発表をした。児童は泥だらけになりながらびわ湖の池に入って泥上げをしたり、生き物を捕まえたりして意欲的に活動することができた。



## (2) 恵美須溜での自然散策、ごみ回収活動

全校児童が縦割り班で校区にある恵美須溜まで歩く「はとのこ遠足」を実施した。これは、学校から約2km離れた恵美須溜の畔で、異年齢交流や環境に関する学習、清掃活動をするもので、具体的には以下の3つの活動を行った。

- ① 恵美須溜についてお話を聞く活動
- ② ネイチャービンゴ
- ③ 散乱ごみ回収活動を行った。

①については、「恵美須溜の環境保全」や「恵美須溜を訪れる水鳥」についてお話を聞いた。

②は、縦割り班ごとに恵美須溜の周りを歩きながら、示された草花等を見つけるゲームである。子ども達は、ヨシ地や樹木の広がる親水域の自然に親しみながら楽しく取り組んでいた。

③の活動は、ため池の喫水域を周回しながら、釣り糸や釣り針、空き缶やビニル袋などを回収するもので、「子どもたちが掃除をするようになって、水鳥が釣り糸や釣り針で命を落とすことが少なくなった。」との、

地域の方の感謝の声にも支えられて、意欲的に取り組んでいた。



## (3) 大気の調査とケナフ栽培（6年）

6年生は、地球規模の環境問題について学習し、地球温暖化などの原因となっている大気の変化について調査をした。校区内の空気の汚れを調べるために、松の葉の気孔を観察した。また、気体検知管を使い、比較しながら調査をした。意外と汚れのある愛東の大気を少しでも浄化させるためケナフを栽培し、12月に親子活動で紙漉をした。漉いた紙が卒業証書となる。



## (4) エコ委員会の取組

エコ委員会では、全校にエコ活動を呼びかけ、年間を通して、手洗い後の節水チェックや、中休み・昼休み中の節電を呼びかけるなど、自主的な点検活動を行い、全校にエコ意

識を高めてもらえるよう、はたらきかけをした。

### ア エコキャップ回収活動

全校のみんなに協力してもらえよう、ペットボトルキャップ入れの箱を置いた。集めたペットボトルキャップは、地域の福祉施設「愛東和楽」に寄付し、福祉活動に役立ててもらっている。

### イ 古紙回収

ごみを減らし、リサイクル活動に取り組むために、いらなくなった紙を集めた。

各家庭では個々でエコ活動に努めておられるが、学校での委員会活動だけでなく、PTA活動としてもエコなくらしの意識化を図ってこうと活動を進めている。

## 3 成果と課題

教師が子どもたちの自発的な活動を支援し見守るようにすることで、児童を中心として主体的に活動を進めていくことができるようになってきた。このような姿が見られるようになってきたことは、学習の中や家庭生活の中での会話などを通して、子どもたち自身が環境に目を向けて省エネ省資源を意識したことや、自分たちの手で実践していこうという思いをもつことができるようになってきたことの表れであると言える。少しずつ学校生活や家庭生活の中で子どもたちが発信していくことができるように、学びの深化をめざし、よりよい体験活動を探っている。

「エコな暮らし」は、ESDにつながり、これからの未来に生きる子どもたちには必要不可欠な学びである。今年度の活動をふり返り、子どもたちとともに課題を明らかにし、次年度に生かしていきたい。そして、これからの暮らしの中で、さらにPDCAサイクルを意識したより主体的な学習に努めていきたい。



学校名	東近江市立愛東北小学校
住所	東近江市百済寺本町1399番地
電話番号	0749-46-0588
E-mail	aikitasho@higashiomi.ed.jp